

# ひょうごMCIネットワーク強化事業

形態：委託事業  
委託先：認知症疾患医療センター

事業期間：1年（1年ごとに評価）

目的：認知機能が低下してからも、本人の力を活かして自分らしい暮らしを続けることができるよう早期からの適切な支援体制の構築を目指す。  
※健康危機（認知機能低下、MCI）に直面した県民が、認知症に進行する可能性、進行予防できる可能性の両面を正しく理解し、今後の生活に備えることで自分らしい暮らしを維持し、自身の力を十分発揮して人生を全うできるよう診断直後から適切な支援を受けられる体制の整備を進める。

新薬の承認等、認知症医療体制が大きく変化する社会背景を踏まえ効果的かつ現実的なMCIの支援体制の在り方を検討する  
市町が協働することで、認知症疾患医療Cと市町との連携強化、地域における支援体制の検討を促進する

## 事業内容

## 認知症疾患医療センターの役割

## 協働市町の役割

### (1) MCI院内教室の実施

認知症疾患医療Cで、MCIと診断した本人、家族への診断後支援として疾病理解と受容を促す

主催：受託した認知症疾患医療C

回数：年4回程度

プログラム：各認知症疾患医療Cのオリジナル

但し①疾病理解 ②対応方法③社会資源は必須

対象者：自院でMCIと診断した患者とその家族

・市町と協働して教室を企画、運営し、院内におけるMCIの方への診断後支援を強化する

～効果～

- 患者・家族への疾病理解・受容を促すことができる
- MCI患者とつながり続ける手段となる
- 市町事業へのつながりがしやすい
- 市町との連携強化・相互理解が進む

・認知症疾患医療センターと協働して教室運営に関わり、地域でのMCIの方への支援体制構築を検討するためのヒントを得る

・地域資源や相談機関について紹介する

～効果～

- 市町担当者の疾患理解・ニーズ把握、施策展開への一助
- 社会資源について情報提供ができる
- 認知症疾患医療Cとの連携強化・相互理解が進む

### (2) MCI支援体制構築会議の設置

各認知症疾患医療Cや市町の実情に応じた教室実施計画の共有、実施中、実施後の評価、見直し等を教室実施のセンターごとで実施する

主催：受託した認知症疾患医療C

回数：年2、3回程度

構成員：認知症疾患医療センター、協働市町等  
MCI院内教室の運営メンバー

・MCI院内教室に携わる関係者、協働市町の担当者を参集し、教室のあり方やMCI支援体制構築に向けた検討を行う

～効果～

- 教室の運営方針や目的を意見交換・共有することで、市町の視点も反映したより効果的な教室のあり方を検討できる
- 認知症疾患医療センターと協働市町がそれぞれの視点で意見交換・情報収集することで、圏域ごとのMCI支援体制構築が促進される

・認知症疾患医療センターが開催する会議に出席し、MCIの方への地域での支援体制構築を検討する

### (3) ひょうごMCIネットワーク会議

MCI院内教室を実施する疾患センターと協働市町による、全県展開に向けた意見交換を開催。  
(MCI院内教室の実践報告・課題・効果等の共有)

主催：兵庫県(年2回程度)

【ねらい】

・MCI院内教室を実施するセンターとその協働市町とともに、実施結果を踏まえ、全県展開に向けた共通課題の抽出や、より効果的なMCI院内教室のあり方について検討し、全圏域のMCI支援体制構築に向けた検討を行っていく